



安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社
東京都中央区日本橋本町4-3-8
担当
TEL(03)3270-2701
FAX(03)3270-2720
緊急連絡 同上
改訂日 2024/06/10
SDS整理番号 16485350

製品等のコード : 1648-5350、1648-5360、1648-5380

製品等の名称 : ポリ硫化カリウム

推奨用途 : 試薬

参考：その他の用途(当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。)
調色処理剤など

使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと



構造不確定

2. 危険有害性の要約

GHS分類

健康に対する有害性
皮膚腐食性/刺激性 : 区分1B

環境に対する有害性
水生環境有害性 短期(急性) : 区分1

注意喚起語 : 危険

危険有害性情報
重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
水生生物に非常に強い毒性

注意書き

【安全対策】

粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

取扱い後は、よく手を洗うこと。

保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

環境への放出を避けること。

【救急措置】

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚(又は髪)に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。

皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。直ちに医師に連絡すること。

眼に入った場合：水で30分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に

外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

漏出物を回収すること。

【保管】

直射日光を避け、容器を密閉し冷暗所に施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務を委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、

現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	：混合物
化学名	：ポリ硫化カリウム （別名）多硫化カリウム、硫化カリウム、硫肝 （英名）Potassium Polysulfide、 Potassium monosulfide、liver of sulfur、 Potassium sulfide (K ₂ (S _x)) (EC名称、TSCA名称)
成分及び含有量	：ポリ硫化カリウム、35.0%以上 (as K ₂ S)
化学式及び構造式	：K ₂ (S _x)、構造式は不詳。
分子量	：不定
官報公示整理番号	：(1)-461「硫化カリウムとして」
化審法 安衛法	：公表化学物質（化審法番号を準用）
CAS No.	：37199-66-9
EC No.	：253-390-1
危険有害物質	：ポリ硫化カリウム

4. 応急措置

吸入した場合	： 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の治療を受ける。
皮膚に付着した場合	： 直ちに医師に連絡する。 速やかに、皮膚を多量の水と石鹸で洗う。 洗浄開始が遅れたり、洗浄不十分の場合は、皮膚障害のおそれがある。 皮膚刺激などが生じた時は医師の手当を受ける。 汚染された作業衣は作業場から出さない。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
目に入った場合	： 直ちに、流水で30分以上注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを 着用して容易に外せる場合には外して洗うこと。洗浄を続ける。 まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るよう に洗浄する。 目の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。
飲み込んだ場合	： 直ちに、口をすすぐこと。吐かせてはいけない。 吐かせると再びのどや食道を通り二重に刺激・損傷を受けることになる。 直に牛乳や卵を飲ませて毒性を希釈する。 牛乳、卵がない時は、コップ数杯の水を飲ませ、体内で毒性を薄める。 嘔吐が自然に生じた時は、気管への吸入が起きないように身体を傾斜させ る。嘔吐後、再び水を飲ませる。 意識がない時は、何も与えない。 医師の診断、治療を受ける。 気分が悪い時は、医師の診察、手当を受ける。

予想される急性症状及び遅発性症状： 情報なし

5. 火災時の措置

適切な消火剤	： 粉末消火剤、二酸化炭素、散水、噴霧水、泡消火剤
使ってはならない消火剤	： 棒状放水（本品があふれ出し、生物に対する有害性や環境汚染を引き 起こすおそれがある。）
特有の危険有害性	： 火災中に熱分解し、刺激性又は毒性のガス及びヒュームを発生する 可能性がある。 消火水は環境汚染を引き起こすおそれがある。
特有の消火方法	： 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
消火を行う者の保護	： 有毒ガス等の接触を避けるため、消火作業の際は風上から行い、 空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	： 漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。 漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。 風上から作業し、粉じんなどを吸入しない。 粉じんが飛散する場合は、水噴霧し飛散を抑える。 密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
環境に対する注意事項 回収、中和	： 河川、下水道、土壤に排出されないように注意する。 漏洩物を掃き集め、密閉できる空容器に回収する。 漏洩物が飛散する場合は、水を散布し湿らしてから回収する。

- 回収した漏洩物は、後で産業廃棄物として適正に処分廃棄する。
後処理として、漏洩場所は大量の水を用いて洗い流す。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材
：危険でなければ漏れを止める。
- 二次災害の防止策
：事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱いおよび保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策
：本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。
粉じんの発生、堆積を防止する。
- 局所排気・全体換気
：換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。
- 安全取扱い注意事項
：すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの
取扱いをしてはならない。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
取扱い後はよく手を洗う。
- 接触回避
：湿気、水、高温体との接触を避ける。
- 保管
- 技術的対策
：保管場所は、製品が汚染されないよう清潔にする。
保管場所は、採光と換気装置を設置する。
- 保管条件
：直射日光や高温多湿を避けて保管する。
容器を密閉して冷暗所に保管する。
混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
- 混触危険物質
：強酸、強酸化剤
- 容器包装材料
：ポリエチレン、ポリプロピレン、ガラス等

8. ばく露防止及び保護措置

- 管理濃度
：設定されていない。
- 許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）：
日本産衛学会
ACGIH
：設定されていない。
- 設備対策
：取扱場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。
この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。
- 保護具
- 呼吸器の保護具
：呼吸器保護具(防じんマスク)を着用する。
- 手の保護具
：保護手袋（塩化ビニル製、ニトリル製など）を着用する。
- 眼の保護具
：保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用する。
- 皮膚及び身体の保護具
：長袖作業衣を着用する。
必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
- 衛生対策
：この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
取扱い後はよく手を洗う。
作業衣を家に持ち帰ってはならない。
保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

9. 物理的及び化学的性質

- 物理状態
- 性状
：フレーク
- 色
：黄褐色～赤褐色
- 臭い
：いおう臭
- pH
：強アルカリ性（水溶液）
- 融点
：> 470
- 凝固点
：データなし
- 沸点
：データなし
- 引火点
：データなし
- 可燃性
：可燃性
- 爆発範囲
：データなし
- 蒸気圧
：データなし
- 相対ガス密度（空気 = 1）
：データなし
- 密度又は相対密度
：データなし
- 比重
：データなし
- 溶解度
：水に溶けやすい。
エタノールに溶ける。
- オクタノール/水分係数
：データなし
- 発火点
：データなし
- 分解温度
：560

粘度 : データなし
動粘度 : データなし
粒子特性 : データなし

10. 安定性及び反応性

安定性（反応性・化学的安定性）

通常取扱条件において安定である。
危険有害反応可能性 : 酸性物質と混触すると有毒な硫化水素ガスを発生することがある。
亜鉛、アルミニウム、銅等の金属を腐食する。
強酸化剤と混触すると反応することがある。
避けるべき条件 : 直射日光、高熱、湿気
混触危険物質 : 強酸、強酸化剤、金属
危険有害な分解生成物 : 硫化水素ガス、硫酸化合物

11. 有害性情報

急性毒性 : 経口 分類できない。
経皮 分類できない。
吸入（蒸気） 分類できない。
吸入（粉じん） 分類できない。
皮膚腐食性/刺激性 : 本製品のデータはないが、European Directive 67/548/EEC において R34 (Causes burns.) に分類されているため、区分1 Bとした。
重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷（区分1B）
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 分類できない。
呼吸器感受性 : 分類できない。
皮膚感受性 : 分類できない。
生殖細胞変異原性 : 分類できない。
発がん性 : 分類できない。
知見データがなく、産衛学会やIARC、ACGIH、NTP、EPA、OHSAの国際評価機関の報告がないため、分類できない。
生殖毒性 : 分類できない。
特定標的臓器毒性（単回ばく露） : 分類できない。
特定標的臓器毒性（反復ばく露） : 分類できない。
誤えん有害性 : 分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性
水生環境有害性 短期(急性) : データはないが、European Directive 67/548/EEC において R50 (Very toxic to aquatic organisms.) に分類されているため 区分1とした。
水生生物に毒性（区分1）
水生環境有害性 長期(慢性) : 分類できない。
残留性・分解性 : データなし
生物蓄積性 : データなし
土壌中の移動性 : データなし
オゾン層への有害性 : 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。
都道府県知事などの許可（収集運搬業許可、処分業許可）を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票（マニフェスト）を交付して廃棄物処理を委託する。
廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。
汚染容器及び包装 : 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。
空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

緊急時応急処置指針番号 : 154

国際規制

海上規制情報（IMO/IMDGコードの規定に従う）

UN No. : 3262
 Proper Shipping Name : CORROSIVE SOLID, BASIC, INORGANIC, N.O.S.
 (Potassium polysulphides)
 Class : 8 (腐食性物質)
 Sub risk : -
 Packing Group : II
 Marine Pollutant : Yes (該当)
 Limited Quantity : 1kg

航空規制情報（ICAO-TI/IATA-DGRの規定に従う）

UN No. : 3262
 Proper Shipping Name : Corrosive solid, basic, inorganic, n.o.s.
 (Potassium polysulphides)
 Class : 8
 Sub risk : -
 Packing Group : II

国内規制

陸上規制情報（特段の規制なし）

海上規制情報（船舶安全法/危険物船舶輸送及び貯蔵規則/船舶による危険物の運送基準等を定める告示に従う）

国連番号 : 3262
 品名 : その他の腐食性物質（無機物）（固体）（アルカリ性のもの）
 クラス : 8
 副次危険 : -
 容器等級 : II
 海洋汚染物質 : 該当
 MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類 : 非該当
 少量危険物許容量 : 1kg

航空規制情報（航空法/航空法施行規則/航空機による爆発物等の輸送基準を定める告示に従う）

国連番号 : 3262
 品名 : その他の腐食性物質（無機物）（固体）（アルカリ性のもの）
 クラス : 8
 副次危険 : -
 等級 : II

少量輸送許容物件

許容量 : 5kg

特別の安全対策

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
 他の危険物や燃えやすい危険物に上積みしない。
 他の危険物のそばに積載しない。

15. 適用法令

労働安全衛生法 : 皮膚等障害化学物質等及び特別規則に基づく不浸透性の保護具等の使用義務物質「皮膚刺激性有害物質」（安衛則第594条の2）
 化学物質排出把握管理促進法（PRTR）法 : 非該当〔2023年（R5年）4月1日施行の法改正にも非該当〕
 消防法 : 非該当
 毒物及び劇物取締法 : 非該当
 船舶安全法 : 腐食性物質（危規則第2，3条危険物告示別表第1）
 航空法 : 腐食性物質（施行規則第194条危険物告示別表第1）
 輸出貿易管理令 : キャッチオール規制（別表第1の16項）
 HSコード : 2830.90
 第28類 無機化学品
 ・輸出統計番号（2022年版）：2830.90-000
 「硫化物及び多硫化物（多硫化物については、化学的に単一であるかないかを問わない。）
 - その他のもの」
 ・輸入統計番号（2024年4月1日版）：2830.90-000
 「硫化物及び多硫化物（多硫化物については、化学的に単一であるかないかを問わない。）
 - その他のもの」

16. その他の情報

（注）本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考文献 :

化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances	NIOSH CD-ROM
GHS分類結果データベース	nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。